

臨床研究に関する情報公開（一般向け）

<研究課題名>

在宅がん患者の訪問リハビリテーション利用による
経過および影響に関する観察研究

<研究期間>

2018年4月1日～2024年3月31日

<研究の目的・意義>

現在、男女ともに2人に1人が一生のうちがんと診断されると言われており、我が国において、がん治療を終えた、あるいは治療を受けつつあるがん生存者は2015年以降500万人を超えると予測されています。近年、がん患者様の在宅ケアが注目されていますが、わが国では、在宅がん患者様における訪問リハビリテーション実施による影響を検討した研究報告はまだないのが現状です。

そこで、本研究の目的は、訪問リハビリテーションを受ける在宅がん患者様のリハビリテーション開始から4週間までの生活の質や身体機能、症状緩和の経時的な影響を明らかにすることです。訪問リハビリテーションが在宅がん患者様の生活の質や身体機能、症状緩和に与える影響とその要因を明らかにすることは、質の高い訪問リハビリテーションを提供する上で不可欠であり、意義のあることと考えます。

<研究方法>

本研究の対象は、マリアーナ訪問看護ステーションに訪問依頼のあった在宅がん患者様であり、既存の訪問リハビリテーションの診療情報を研究データとして用いるため、マリアーナ訪問看護ステーションのホームページ上に研究情報などを公開し、研究対象者様が拒否できる機会を保障させていただきます。研究への参加は自由意思であり、拒否した際に不利益を被ることはありません。

調査する項目としては、QOLはEORTC QLQ-C15-PAL(日本語版 The European Organization for Research and Treatment of Cancer Quality of Life Questionnaire Core 15 Palliative Care)、全身状態はPPS(Palliative Performance Scale)、身体機能はCFAS(Cancer Functional Assessment Set)、疼痛評価は痛みの評価シート、倦怠感はBFI(日本語版 Brief Fatigue Inventory)、全身症状はSTAS(Support Team Assessment Schedule)、ADLはFIM(Functional Independence Measure)、画像データ、生理検査データ、血液検査データ(Hb、Albなど)、カルテより年齢、性別、体重、BMI、病巣、現病歴、既往歴、治療状況、

家族歴などの情報を抽出します。

<予測される利益・不利益について>

訪問リハビリテーションを利用することで、在宅がん患者様の生活の質や身体機能の維持・向上や症状緩和に良い影響があると予測され、患者様やご家族様の身体的・心理的負担軽減においても重要な在宅ケアの選択肢のひとつになると考えられます。

本研究は既存の訪問リハビリテーションの診療情報を研究データとして用いるため、患者様に新たな健康上の不利益が出現することは一切ございません。患者様からの質問および苦情がある場合には、下記の連絡先で随時受付、適宜対応させていただきます。

<本研究の実施について>

この研究は日本理学療法士学会倫理研究審査部会の承認を受けた上で行われます。もしも患者様がこの研究へのご自身の情報の利用を望まれない場合には、この研究には使用いたしませんので、下記連絡先までご連絡・ご相談ください。しかしながら解析終了後または学会・論文での発表後には、データを削除できないことがありますのでご了承ください。

問い合わせ先：

マリアーナ訪問看護ステーション

研究代表者：主任理学療法士 尾関伸哉

住所：〒454-0013 愛知県名古屋市中川区八熊3丁目17-3 サンメゾン八熊703

電話番号：052-212-9565 FAX 番号：052-212-9566

<個人情報の保護について>

患者様のプライバシーを守秘し、研究に用いる情報は全て匿名化して個人が特定されない形にしてから解析を行います。したがって、患者様の個人情報が他に漏れる心配はありません。匿名化されたデータやその他の解析資料等は、施錠可能な棚で保管し、研究終了後10年間を経過した後、破棄いたします。

<費用について>

この研究に関して、患者様へ追加でご負担いただく費用はありません。また謝礼もございません。